

# 国鉄解体の「効績」を自民党に買われ 10万首切りの責任者-澄田局長の無責任は軀

## 日刊 動労千葉

87. 1. 17

No. 2454

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五〜六（公衆）〇四七二二二七二〇七

国鉄労働者十万人首切りと、国鉄労働運動つぶしの陣頭指揮にたち「広域配転」「人材活用センター」でファッショ的労務政策を強行してきた澄田国鉄労務理事は任期途中で職責を放り投げ「知事選出馬」のオイシイ話に飛びつくという無責任な「国鉄官僚」である。国鉄「赤字」を生み出してきた張本人である政府・自民党、財界、国鉄当局が分割・民営で国鉄労働者や国民を欺むく「国鉄改革」がますます明らかになってきた。

### 多くの国鉄労働者を 死に 追いやった

澄田常務理事は、八五年九月職員局長となつてから大要員合理化を強行し「余剰人員」を生み出し、動労革マル・松崎を下僕に従えて十万人首切り・労働組合解体のための差別・選別の不当労働行為をやりたい放題やる中で、多くの国鉄労働者を死に追いこんできた張本人である。

### 納得できないまったく無責任

澄田常務理事の知事出馬について、新聞各紙は、国鉄改革法の成立で、四月一日の分割・民営化は確定したものの改革の成否を左右する余剰人員問題や職員の振り分け問題は、むしろこれからが本番、この時期に職員担当の最高責任者が中途退任するのは「敵前逃亡だ」「不安にかられている職員の気持ちも考えないでやめるのは納得できない」「まったく無責任」などと国鉄内部でも批判が続出している。と報じている。

また、断じて許せないことは 国労・動労千葉解体のために組合役員・活動家を職場から排除する 事実上、組合活動を封殺する目的として行われた「人活センター」へ送りこみ、本来の業務とかけ離れた業務をおしつける、処分の乱発、労働者の基本的権利を奪いとるファッショ的労務政策を行ってきたのである。

分割・民営化の矛盾は何一つ解決されていなければ、か、ますます深まるばかりだ。先送りされた国鉄がかかえる問題は矛盾が爆発、大破綻に突き進んでいく中で、まさに卑怯な「敵前逃亡」である。

### 見下げはまたハレン千葉 国鉄職員振り分けのトップ 任期途中で知事選に 国鉄の澄田常務轉身 無責任の身も



澄田信義氏

分割・民営化まもなく八十一日になった国鉄は十日、職員管理・労務責任者の澄田信義常務理事が今春の島根県知事選出馬のため任期途中で退任、後任に池田重明常務局長が発令された。

職員は将来のかわった新会社への振り分けや余剰人員の再就職先確保といった難作業がヤマ場を差し掛かっている時期の人事異動だけに一般職員だけでなく、国鉄職員の受け入れに頭を痛める中央省庁からも「あまのりにも無責任」の声も出ている。

澄田氏は昨年二月に常務理事に就任と同時に職員局長事務取扱、雇用対策推進本部事務取扱、雇用対策推進本部事務取扱、局長事務取扱を兼務、広域異動・人材活用センターなどこの一年、各方面で活躍を呼んだ労務政策を推進した。余剰人員の再就職問題は中央省庁、自治体、民間会社へ頭を回して回った。

現在、国鉄では新会社と国鉄清算事業団への職員振り分け作業に本格着手、二月初めにも新会社への採用推薦者名簿を作成する大詰め段階に入っており、北海道や九州の余剰人員の雇用先不足という深刻な問題にも直面している。それだけに澄田氏の退任は、いかに知事選といつても職員が将来の不安におびえていた時期に辞めるのは極めてきつい「本社中堅幹部」といった批判も少なくない。

また、国鉄マンの採用を願ひされた中央省庁でも「頼むだけ頼んでおいて、国鉄さんのおもてなしは理解し苦しむ」という声も。

澄田氏は、昨年末、自民党島根県選で擁立が決まった後、辞表を提出、島根県入りして早速出馬の準備に取り掛かっている。

一方、澄田氏の後任に発令された池田氏は、大阪鉄道管理局総務部長時代の五十二年、参院選全国区で当選した元国鉄常務理事伊江朝雄議員（自民）派の選挙違反事件に連座、五十四年に神戸地裁で罰金三千万円、公民権停止五年の有罪判決を受けた経歴の持ち主。

池田、重明氏（いけがみ、しげあき）東大法学部卒。昭和33年国鉄に入り、大阪鉄道管理局総務部長、経理高会計課長、仙台鉄道管理局長などを経て59年9月から事業局長。51歳。高知県出身。